

# 全国学力・学習状況調査から分析する本校の強みと弱み

令和4年度 大津市立皇子山中学校

## 【調査結果の概要】

### 〔教科に関する調査（国語・数学・理科）から読み取れる成果と課題〕

○国語については、平均正答率が全国を4ポイント（県を3ポイント）下回っており、特に知識・技能の観点では「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が低くなっている。ただ「情報の扱い方に関する事項」の正答率は全国平均を上回り、特に設問3-の「表現の技法について理解する」については、全国・県平均を大きく上回っている。また思考・判断・表現の観点では「書くこと」の正答率が全国平均を上回り県平均と同程度であるが、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」については全国・県平均を下回っている。設問に対する解答率に着目すると、「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す」「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く」などで無解答率が高く、表現の技法については理解できていても、自分の考えを実際に伝え表現することに課題を持つ生徒が多くいることが読み取れる。

○数学については、平均正答率は全国・県と同程度である。観点別に比較すると、知識・技能では全国・県平均をともに1ポイント程度上回っているが、思考・判断・表現では2～3ポイント下回っている。学習指導要領の領域では、「図形」の正答率が全国・県平均を上回るものの、「データの活用」ではともに下回った。また「数と式」「関数」については、全国と県平均の中間の値であった。設問6（3）、8（1）などでは、正答率が高いいっぽう、無解答率も高い傾向があり、生徒個々の学力差が大きいことが読み取れる。「データの活用」では、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する分野で課題がみられた。

○理科については、平均正答率が全国を2ポイント（県を1ポイント）下回っている。知識・技能の観点では全国・県と同程度であるが、思考・判断・表現の観点での正答率が低い結果となった。設問2（2）、6（1）（2）（3）など「地球」を柱とする領域の正答率は全国・県平均を大きく上回るものの、「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする領域の設問の多くで平均を下回った。特に設問1（1）、3（2）、4（1）の正答率が低く、学習で得た知識及び技能の活用や、事象を科学的に分析して解釈する分野に課題がみられた。

○国語・数学・理科ともに、本来の本校の強みであったはずの、学習に対する意欲や関心が低下している傾向がみられた。全国・県平均と比較すると、「勉強は好きですか」「勉強は大切だと思いますか」「授業の内容はよく分かりますか」「授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」の設問に対して、すべての教科で肯定的な回答は少なかった。コロナ禍で本校が長年積み重ねてきた「学び合い」学習ができず、一斉授業で知識伝達型の学習形態が多くなったのがその一因であると考察する。校内研究を中心に授業改善をして、本校の強みを取り戻したい。

### 〔生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査から読み取れる成果と課題〕

○「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」などの設問に対して肯定的な回答が多く、自己肯定感や自尊感情をもって未来に力強く歩みを進める本校生徒の強みが読み取れる。また「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問に、できると回答をした生徒の割合は全国・県平均を大きく上回った。年間を通して定期的に教育相談を実施した成果であり、あいさつ運動や生徒会活動などの日々の取り組みの中で、互いの信頼関係が構築できている。いっぽう、「人が困っているときは進んで助けますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」などの設問に対する回答では自己有用感が低い傾向が伺え、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の設問に肯定できない回答も多くあった。

○学校の授業でPC・タブレットなどICT機器をどの程度活用しているかなどの設問については、質問紙の回答と現在の状況は大きく異なる。「1・2年生のときに受けた授業で、どの程度使用しましたか」について、肯定的な回答が全国・県平均に対して15ポイント程度低くなっているが、その後生徒一人に一台タブレットが使用できるようになり、ここ最近の授業でのICT機器の活用頻度は飛躍的に高くなった。

○総合的な学習の時間では、キャリア教育として計画していた職場体験学習がコロナ禍で実施できず、代替の学習として企画した「企業体験」も実施を断念せざるを得なかった。修学旅行の自然体験につながる「火起こし体験」や「フォトブック」の取り組みなど、総合的な学習の時間として効果的な活動を模索してきたが、生徒の主体的で自発的な活動にまでつなげることができなかった。また学級活動や道徳の授業では、自分の考えを深めたり、互いの意見のよさを生かしてグループや学級で話し合う活動を、なお一層充実させる必要がある。